

高山赤十字病院 内科後期臨床研修プログラム

1. 研修期間：5年間
シニアレジデント：3年間（認定内科医取得、認定専門医準備期間）
チーフレジデント：2年間（認定専門医取得期間）
2. 研修システムの目的
 - A) 内科医として総合的な診療能力を身につける
 - B) 内科医として地域医療に貢献する
 - C) 内科領域の専門性を高める
3. 到達目標
 - A) 認定内科医を取得する。
 - B) 認定内科専門医を取得する。
 - C) 認定内科専門医あるいは内科系サブスペシャリティ学会専門医取得の足がかりとする。
 - D) 具体的な到達目標としては内科学会がホームページ上で公開している研修カリキュラムを参照。（内科学会員のみ閲覧可）
 - E) 参照資料 認定内科医・専門医取得について
内科学会の定める認定医の受験資格
提出書類
研修カリキュラム(抜粋)
4. 研修プログラム
内科全般に、片寄らない知識、技術の習得を目指す。各サブスペシャリティ部門の患者に深くに関わり、検査・治療の実情を経験するためにはある程度まとまった期間が必要であり、サブスペシャリティ診療チームに所属しローテートすることとする。
 - A) サブスペシャリティ診療チーム
消化器チーム
循環器チーム
呼吸器チーム
内分泌・代謝、腎臓チーム
血液、神経チーム
 - B) 各診療チームに所属のローテート期間は6ヶ月を目安とするが、初期研修時の経験や将来の専攻科目希望により増減可能とする。合計で3年間となるよう調整する。
 - C) 各診療チームに所属中は、検査、治療、カンファランス等チームのスケジュールに従う。
 - D) 所属診療チームの領域以外の患者の受け持ちは可能であるが、診療チームのスケジュール参加に支障を来すような負担はさける。
 - E) 感染症・中毒、アレルギー・自己免疫疾患については、特に担当チームが定まっていないが、どのチームに所属していても受け持つ機会はあると考えられる。
 - F) 内科外来を担当し、一般内科外来を適切に処理できる能力を身につける。
 - G) 全研修期間を通じ、平日内科系救急外来当番、当院規定の休日・夜間の救急外来日直・当直を担当することにより、一次～三次の幅広い内科系救急疾患の適切な初療を身につける。また、救急外来経由で入院となる患者を受け持つことにより、初療を超える高度な検査、治療を経験し、転帰を見届ける。

- H) 希望により、一般内科医として習得が望ましいと思われる検査手技(腹部エコー、心エコー、上部消化管内視鏡検査、消化管造影検査等)については、所属診療チームのスケジュール参加に支障がないように配慮しながら、全研修期間を通して修練を積むことが可能である。
 - I) 最短で研修プログラム2年目(卒後4年目)で認定内科医の習得が可能である。研修プログラム3年目(卒後5年目)には確実に習得することを目標とする。その後、チーフレジデントにて認定内科専門医取得を目指す。
 - J) チーフレジデント研修時は、原則サブスペシャリティの研修を行うが、認定内科専門医を取得するために、内科全体的な研修も同時に行う。
- 5 . プログラム研修中の医師の処遇について
当院規定により、常勤医師と同様の処遇とする。
- 6 . 研修全体について
認定内科専門医取得後は、認定内科専門医以外に内科のサブスペシャリティの専門医を取得することが可能である。
日本内科学会 研修カリキュラム(2004年9月改訂版)を参照